

授業科目	授業番号： 484			担当者	岩下 雅子
	学校経営と学校図書館			授業外対応	メールによる
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】変化し続ける新しい学校図書館について理解する 【概要】多くの学校図書館の事例を校種別に学ぶと同時に、学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します 【到達目標】学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)				
授業 スケジュール	第 1 回 学校図書館の理念と教育的意義について学ぶ 第 2 回 学校図書館法等について学ぶ 第 3 回 世界・日本の学校図書館の変革（ルソー、マン、デューイ、沢柳政太郎） 第 4 回 鹿児島県の読書活動（「母と子の 20 分間読書運動と棕鳩十」） 第 5 回 学校経営の中の学校図書館（校務分掌等） 第 6 回 学校経営の中の学校図書館（学校内外の連携、協力体制づくり） 第 7 回 学校図書館の運営①小学校 第 8 回 学校図書館の運営②中学校 第 9 回 学校図書館の運営③高等学校 第 10 回 学校図書館の運営④特別支援学校 第 11 回 学校図書館広報活動（HP 等） 第 12 回 読書感想文の取組み 第 13 回 読書感想画の取組み 第 14 回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書が人間に果たす役割/意義について学ぶ（1） 第 15 回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書が人間に果たす役割/意義について学ぶ（2）				
授業外学習 （予習・復習）	事前に配布された資料は読んでくること				
成績評価の方法	筆記試験 50% 授業ごとに実施するレポート 30% 発表 20%				
実務経験について	県立高等学校（4 校）および短期大学図書館司書（専門員）として勤務				

授業科目	授業番号：485			担当者	岩下 雅子
	学習指導と学校図書館			授業外対応	メールによる
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	1,2年	後期	3単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】学校図書館法(この法律の目的)第二条の「授業の展開に寄与する」とはどういうことだろう。学校図書館を担う司書教諭と学校司書が協働しながら支援する学校図書館の授業支援についてグループ討議を通して学びを深める。 【概要】常にアクティブラーニングを理解しながら授業を進める。多くの学校図書館が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に、学校図書館と授業（教科指導）にとどまらず「読書センター」「学習センター」「情報センター」の大きな流れの中の学校図書館を理解する。司書教諭としての職責や職務内容についての理解を深めるとともに学校図書館と全教科の授業支援の具体的な事例(全国)を参考に、学校司書との協働についてもグループ等で討議する。 【到達目標】学習指導（授業支援）と学校図書館をうまくコーディネートするために、司書教諭が果たす役割を理解する。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 林容子『「総合的な学習」に司書教諭はどう関わるか』全国SLA 2005年三上久代『学校図書館における新聞の活用』全国SLA2006年 稲井達也『資質・能力を育てる学校図書館活用デザイン』学事出版 2017年				
授業 スケジュール	第1回 学校図書館利用指導（学校図書館オリエンテーションについてグループで討議する） 第2回 小学校の図書館教育①（国語の教科書では図書館利用、読書指導がどのように体系化されているか考察する） 第3回 小学校の図書館教育②（学習指導要領を踏まえて図書館利用とメディア活用についてグループで討議する） 第4回 中学校の図書館教育①（国語の教科書では図書館利用、読書指導がどのように体系化されているか考察する） 第5回 中学校の図書館教育②（学習指導要領を踏まえて図書館利用とメディア活用についてグループで討議する） 第6回 高校の図書館教育①（図書館の授業支援事例を参考に、読書手法を用いた授業支援について考察する） 第7回 レファレンス等の情報サービスについてグループで事例研究し発表することでスキルを培う） 第8回 教科学習に活用する学校図書館①（グループで教科に関連したブックトークを構築する） 第9回 教科学習に活用する学校図書館②（グループで構築したブックトークを発表する） 第10回 教科学習に活用する学校図書館③（ブックトークで取り上げた図書を参考にパスファインダーを作成する） 第11回 教科学習に活用する学校図書館④（パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる(1) 第12回 教科学習に活用する学校図書館⑤（パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる(2)。 第13回 教科学習に活用する学校図書館⑥（新聞を活用した授業（NIE）をグループで構築する） 第14回 教科学習に活用する学校図書館⑦（新聞を活用した授業（NIE）のグループ発表を通して、学びを深める） 第15回 授業の連携を通してこれからの司書教諭の役割・課題・展望についてグループで討議する。				
授業外学習 (予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること				
成績評価の方法	筆記試験（50％）授業ごとに実施するレポート（30％）発表（10％）				
実務経験について	県立高等学校（4校）および短期大学図書館司書（専門員）として勤務				

授業科目	授業番号： 486			担当者	木戸 裕子
	読書と豊かな人間性			授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。 【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。 【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考える。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。 様々な読書活動の方法を知る。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法―学校図書館の活用に向けて―』学文社 (2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、				
授業 スケジュール	第 1 回 読書教育とは何か：発達に応じた読書 第 2 回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々 第 3 回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館 第 4 回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携 第 5 回 読書教育の方法 1：就学前・学校全体 第 6 回 読書教育の方法 2：教科と読書教育 第 7 回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ 第 8 回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合 第 9 回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション 第 10 回 発達を支える読書：特別支援教育との関係 第 11 回 読書活動 1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト 第 12 回 読書活動 2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング 第 13 回 読書活動 3：パネルシアター、紙芝居 第 14 回 実演 1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど 第 15 回 実演 2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど				
授業外学習 (予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。				
成績評価の方法	課題提出（50％）と、授業第 14 回、15 回での実演（50％）				
実務経験について	なし				

(注)司書教諭資格に関する科目

授業科目	授業番号： 487			担当者	竹本 寛秋
	情報メディアの活用			授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔履修年次〕	〔学期〕	〔単位〕	〔必修／選択〕	〔授業形態〕
	2 年	後期	2 単位	必修	講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。 【概要】 テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。 【到達目標】現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜、授業中に紹介する。				
授業 スケジュール	第 1 回 情報社会の系譜 第 2 回 情報検索の手法 第 3 回 インターネットの系譜 第 4 回 情報社会の進展と学習観の変遷 第 5 回 学校情報化の変遷と現状 第 6 回 情報社会と著作権 1：著作権の理解 第 7 回 情報社会と著作権 2：著作権の制限 第 8 回 情報社会と著作権 3：デジタル化の進行と著作権 第 9 回 情報セキュリティ 第 10 回 インターネットと情報検索、情報探索の技法 第 11 回 情報探索の実践 第 12 回 ICT を活用した授業 第 13 回 ネットワーク運用 第 14 回 演習 1：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション 第 15 回 演習 2：現代の情報メディアに関する発表とディスカッション				
授業外学習 (予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。				
成績評価の方法	授業での課題（60%）、期末試験（40%）				
実務経験について	なし				

(注)司書教諭資格に関する科目